

寒地道路研究グループ

研究内容

積雪寒冷地の冬期道路においては、積雪や雪氷路面による交通障害、交通事故、吹雪時の視程障害や吹きだまりによる通行止め、雪崩などの雪氷災害が頻繁に発生しており、これらを克服するための研究開発の必要性は依然として高い。これまで、スパイクタイヤ規制後の冬期路面管理、郊外部の対面2車線道路での正面衝突事故対策、吹雪時の視程障害や吹きだまり対策、冬期道路情報の提供等に関する研究を行ってきた。

また、近年は人口減少と高齢化、大規模災害、財源不足等が大きな課題となっており、積雪寒冷地では交通ネットワークの強化による地域間連携や機能分担のため、安全で信頼性の高い冬期道路交通サービスの確保と多発化・複雑化する雪氷災害への対策は必須である。

そこで寒地道路研究グループでは、平成28年度に始まった6カ年の土木研究所第4期中長期計画において重点的に取り組む研究として、以下の2つのプログラム研究を他研究グループと共同で実施している。

「安全で信頼性の高い冬期道路交通サービスの確保に関する研究」では、費用対効果評価に基づく合理的な冬期路面管理水準設定技術の開発、冬期路面管理のICT活用による省力化技術の開発、リスクマネジメントによる効果的・効率的な冬期交通事故対策技術の開発に取り組んでいる。

また、「極端気象がもたらす雪氷災害の被害軽減のための技術開発」では、大雪や暴風雪など極端気象がもたらす雪氷災害の実態解明とリスク評価技術の開発、広域に適用できる道路の視程障害予測技術の開発、吹雪対策施設及び除雪車の性能向上技術の開発に取り組んでいる。

沿革

寒地道路研究グループは、当研究所の平成13年4月の独立行政法人化以前、北海道開発局開発土木研究所道路部と称し、交通研究室、防災雪氷研究室及び維持管理研究室の3研究室で構成されていた。独法化後、(独)北海道開発土木研究所道路部と称し、同じく交通研究室、防災雪氷研究室及び維持管理研究室で構成されていた。平成18年4月に(独)土木研究所と統合された後は、(独)土木研究所寒地土木研究所寒地道路研究グループと称し、それまでの3研究室が寒地交通チーム、雪氷チーム及び寒地道路保全チームと名称変更し引き続き所属した。平成24年4月に寒地土木研究所の組織再編により寒地保全技術研究グループが新たに設置された際、寒地道路保全チームが寒地保全技術研究グループの所属となったため、現在寒地道路研究グループは寒地交通チームと雪氷チームで構成されている。

寒地道路グループのチーム構成と研究課題

